



学校だより NO. 13  
令和3年 8月27日  
帯広市立広野小学校  
文責 校長 新川 和範

Obihiro City Hirono Elementary School



## 2学期の授業が始まりました



8月18日(水)から、2学期が、そして授業が始まりましたが、みなさん一人一人、しっかり取り組んでいる姿が大変印象的でした。まるで、夏休みがなく、ずっと学校生活が続いていたのではないかと錯覚するほどです。改めて、保護者の皆様の夏季休業中の生活面や学習面へのご配慮に感謝いたします。

また、2学期早々、ご家族の体調不良により、登校自粛にご協力くださった保護者の皆様、本当にありがとうございます。現在、新型コロナウイルス感染状況が急激に悪くなってきていることから、同居されるご家族に発熱の有無にかかわらず風邪症状等が見られる方や濃厚接触者もしくはその疑いのある方、PCR検査を受診される方がいらっしゃる場合、また、児童自身の体調が万全でない場合には、学校にご連絡の上、お休みさせていただきますよう、ご理解、ご協力をお願いいたします。



以上、何かご不明な点等ございましたら、広野小学校までご連絡ください。



## 校内授業研究を行いました



すでにお知らせしています通り、今年度本校では、国語科「自分の思いや考えをもち、表現する子どもの育成」を主題に、校内で組織的な研修を進めております。

5月17日(月)の3, 4年生の授業研究(山田学級)に引き続き、7月12日(月)には1, 2年学級(寺川学級)において、8月23日(月)には5, 6年学級(大石学級)において、それぞれ授業研究を行いました。

1年生は「たのしいな、ことばあそび」という教材の課題文を読み、ひらがなの表の中から隠れている言葉を見つけ、ノートに書き、発表し合う学習を行いました。本校には、広野スタイル(6年間を通じて児童同士が教え合い、学び合う学習方法)を実践していますが、お互いに協力し合いながら学習を進めている姿を見て、確実に身に付いてきていると感じました。



2年生は、「どうぶつ園のじゅうい」という教材の説明文を読み取り、獣医の仕事内容について時系列を追って表にまとめるという学習を行いました。課題をしっかりと理解して一人学習にしっかりと取り組むとともに、交流場面では、積極的に発言していました。

5年生は「たずねびと」という物語文を読み、広島での主人公の心情を捉え、物語全体を通じた心情の変化をまとめるという学習を行いました。5年生は広野スタイルがかなり確立してきていることもあり、自分たちで授業を進めることができました。交流の場面では、各自ノートに書いた文章から抜き出した心情を表す言葉と



自分で考えた主人公の心情とを交流し、お互いの考えを理解しました。



6年生は「イートハーブの夢」という説明文をもとに、宮沢賢治の生き方や考え方、作品に表れた特徴を捉えるという学習を行いました。6年生は広野スタイルがほぼ完成していることもあり、自分たちで課題だけでなく、課題解決の基礎知識となる漢字や意味の確認なども行うことができました。

### 合歓垣想太さんがオリンピックのトーチを持って来てくれました

本来であれば、オリンピックの聖火リレーに参加する予定だった本校卒業生の合歓垣想太さん。聖火リレー規模縮小のため、実現しませんでした。先日トーチを持って来校してくださいました。

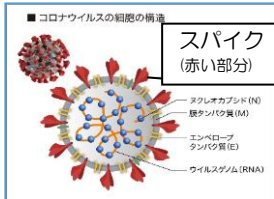
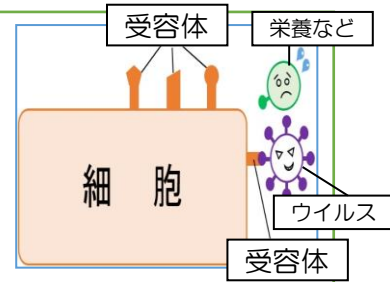
想太さん、ありがとうございました。



# 新型コロナウイルスの感染の仕方と本校の予防の取組について

未だ新型コロナウイルスの影響が続いていますが、科学者の研究も進み、少しずつ新型コロナウイルスやその感染の仕方などが分かってきています。科学者が発信している情報を整理し、以下紹介します。まず、以下の文章に出てくる言葉の意味を、先に紹介します。

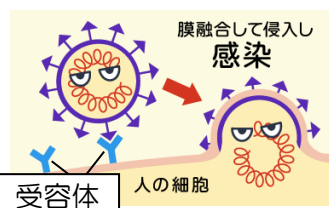
①「受容体(受容細胞)」とは、みなさんの身体の中にあるもので、体の外や体内からの刺激を情報として利用できるような仕組みのことをいいます。例えば、においては空気中に粒(分子)として存在していますが、体に入ってきて、そのままでは情報として活用できません。鼻の中にある嗅細胞がにおいの粒をポケットのようにキャッチして、情報にして脳に伝えて、始めてにおいを認識する(感じる)こととなります。このポケットの部分を受容体であり、嗅細胞のような細胞を受容細胞といいます。



②「ウイルス」とは、小さな病原体のことをいいます。分裂する細胞を自身が持っていないため、生きている宿主(ヒトなど)の細胞に入り、繁殖します。  
③「スパイク」とは、ウイルスの表面にあるトゲトゲの部分のことで、スパイクタンパク質といわれています。受容体にくっつく、鍵のような役割をします。

私達の体には、たくさんの種類と数の受容体が色々な器官にあります。受容体は、種類によって働きも違います。体は進化していくために必要な様々な情報を得るため、受容体を活用しています。その結果、私達は、体外から良い情報だけでなく、悪い情報も受け取るようになります。

ウイルスもそのような情報の1つと考えることができます。たいていのウイルスは、宿主に対して大きな悪影響を及ぼすことはしませんが、新型コロナウイルスは、大変大きな悪影響を及ぼすウイルスということもあり、これだけの社会問題となっています。

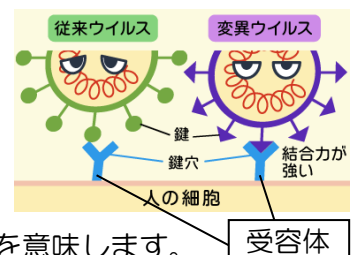


さて、ウイルスはスパイクを使って受容体にくっつき、体内に入ります(感染)。新型コロナウイルスも、他のウイルスと同様にスパイクを持っています。このスパイクは、どの受容体にもくっつくことができるかということ、そうではありません。普段使用している鍵がそうであるように、決まった鍵穴、つまり、特定の受容体としか、くっつくことができないことが分かっています。

新型コロナウイルスの特定の受容体が「アンジオテンシン変換酵素2 (ACE2)」というものです。

このACE2は、血圧と血流を調整する役割を担っているなど、重要な働きをしている受容体です。年齢や体質などにより、存在数に差があることがわかっており、そのことが新型コロナウイルスの感染のしやすさ、しにくさなどにつながっているのではないかという意見もあるようです。

新型コロナウイルスが持つスパイクとACE2は、鍵と鍵穴の関係であることをお話ししましたが、この関係、ジャストフィットしているかということそうではないらしく、はまったり、はまらなかったりするようです。今、変異ウイルスが怖いという報道がありますが、なぜ怖いのかということ、ウイルスが変異する際、スパイクの形が変わり、より受容体に結合しやすい形になるからです。結合しやすいということは、すなわち、感染しやすくなることを意味します。



さて、ACE2は体中に存在するのですが、均質にあるわけではなく、鼻の奥と舌の上、肺の3ヶ所と、限られた部分に多く存在するそうです。このことは、先日出席した会議の中でも話題にあがっていました。このことから、会話時や飲食時は感染リスクが高いということが、改めて認識できます。

以上のことを踏まえ、本校では引き続き、①空気の流れを作り、空気がよどむ空間を作らないようにすること、②手洗い場では、水飲みやうがいをしないこと、③給食時は、黙食を徹底すること、④水を飲む時には、マイボトルのみを使用し、飲むときは黙飲すること、⑤マスクや顔を触るときには、きれいな手で触ることの取組を継続してまいります。保護者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

<参考・引用> 新型コロナウイルス感染症について (北海道ホームページ)、新型コロナウイルスの変異と感染予防策 (神奈川県ホームページ)、ウイルスの生態 (神奈川県衛生研究所ホームページ)、コロナウイルスの構造と複製サイクル (城西国際大学ホームページ)、細菌とウイルス (国立国際医療研究センターホームページ)、ACE2 の標的化 - COVID-19 の細胞への侵入を防ぐ (アンジェラ・ジョウ (アメリカ化学会会員、American Chemical Society ホームページ))